



CAGLIERO 11

カリエロ



150 2021年 6月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

私からのあいさつを皆さんに送り「良いことを広める」働きである「カリエロ11」に感謝を表す機会を頂いたことを、心の底から感謝します。

挑戦を投げかける記念の節目となりました：第150号！ 150、大きな意味のある数です。この良いものは時を超えて続き、自分たちの根本を成すものを決して忘れないよう、私たち皆を助けています。その根本を成すもの、それは宣教精神です！

神が私の神であるなら、神への信仰はあらゆる行為、言葉、選択に表れます……それは復活されたキリストのエネルギー、そのエネルギーは私たちの内に入ります……そして、私たちから周りのすべての人へ、主がおぼしめしになるところへ届きます。

この「復活の霊」は、宣教のニュースレターを通して私たちのもとに届きます。どこにいても届き、私たちが本当は何者であるのか、決して忘れないよう助けてくれます：私たちは、「神の子ら」なのだ。

150号に及ぶカリエロ11の出版に心と優れた力を注ぎ、たずさわってこられた皆さんに感謝！

Stefano Martorio

■ 副総長

ステファノ・マルトリオ, SDB

カリエロ11 第150号!

ヴァツラフ・クレメンテ神父が2008年に宣教顧問に選ばれたとき、私はそのチームの一員として呼ばれました。2008年9月の世界宣教諮問会議の後で、サレジオ会全体の宣教を活気づけるにはどうしたらいいか、長い話し合いをしたのをおぼえています。クレメンテ神父はニュースレターという手段を提案し、フィリピン北管区の宣教促進ニュースレター、「MT 28:29」（訳注マタイ28章29節）のフォーマットを私たちに見せました。クレメンテ神父は私たちのニュースレターに、偉大なサレジオ会宣教師の名を冠することを提案し、毎月11日を宣教のために祈る日にしたいと言いました。こうして**2009年1月11日**の創刊号をもって、「カリエロ11」は誕生したのです。

私が制作した最初の何号かはまさに、会員が5か国語で同時に出るA4版2ページのこの新たな出版物にどのように反応するかを見るためでした。カリエロ11は簡単に読めるだけでなく、共同体、学校、教会で印刷し掲示板に貼り出すのも簡単でした。初め私たちは、ドン・ボスコやほかのサレジオ会宣教師についての考察を掲載しました。しかしまもなく、**体験を分かち合う**よう宣教師に呼びかけることにしました。結局、それが、カリエロ11の中で最も魅力的でよく読まれる記事になりました。

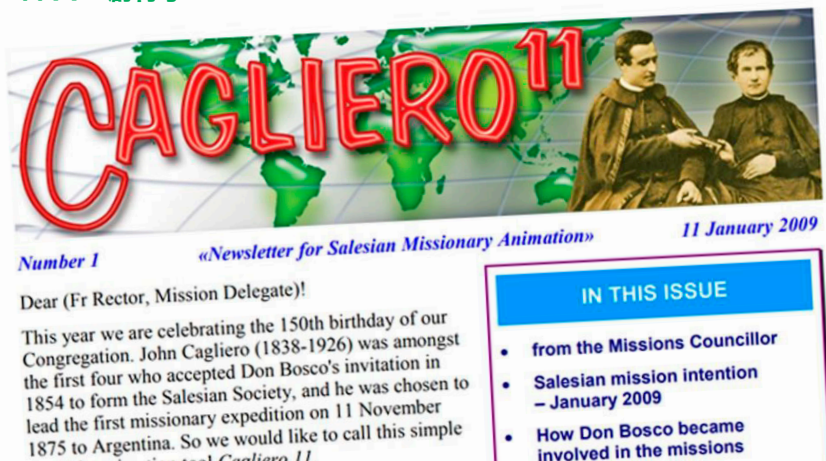
その体験談の多くは、ボレッティーノ・サレジアノの数え切れないほどの版に転載されました。どれほど多くのサレジオ会員や信徒がカリエロ11の宣教師の分かち合いを読み、自らの宣教の召命を見だしたことでしょうか！ 多くの管区で、掲示板にカリエロ11があるのを私はたびたび見ました。現在、カリエロ11は毎月**20か国語に訳され**、若者を主な対象とした1分間の動画が付いています。

これまでの150号をふりかえるとき、ドン・ボスコの宣教精神を生き生きと燃え立たせつづけてくださる聖霊のこのすばらしいインスピレーションを、ただ主に感謝するばかりです。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

カリエロ11 創刊号:



Cagliero 11 (カリエロ11)の全バックナンバー: <http://salesians.jp/library/cariero>

カリエロ11の誕生



ヴァツラフ神父様、2008年に、宣教のニュースレターを創刊しようというアイデアはどのようにして生まれたのですか？

第26回総会後の第1回世界宣教諮問会議(2008年)の際、サレジオ会、サレジオ家族の中で、宣教の活気づけをより目に見える形で行う必要性が強く感じられました。この挑戦に応える方法を探していたとき、毎月の簡単なニュースレターというアイデアが浮かび上がりました。すでにいくつかの管区で用いられている方法でした。「カリエロ」という象徴的な名前は、最初の宣教師派遣を率いたドン・ジョヴァンニ・カリエロ(1838-1926)にちなんでいます。「11」という数字は、ドン・ボスコによる最初の宣教師派遣の重要な日付、1875年11月11日を表しています。こうして「カリエロ11」という名前になりました - 世界中のすべてのサレジオ会共同体への、月ごとの招きです。

12年たった今、150号に及ぶカリエロ11によって何が変わったと思いますか？

確かに最初の二つの目的 - 宣教の働きを目に見えるものにすることに貢献する、そして宣教地と新たな宣教召命のために祈ってもらう - は、サレジオ会、サレジオ家族の多くのところで大いに達成されました。カリエロ11は掲示板に貼られたり、ウェブサイトに掲載されたりしています。その上、カリエロ11が伝える宣教師の召命と生活の体験談は「諸国の民 ad gentes」への宣教師として歩み出すよう、多くの会員を触発しました：ほかの人にできるなら、自分にもできるのではと。カリエロ11が20以上の言語に翻訳され広くサレジオ家族を活気づける道具となっているのは、そのシンプルさゆえかもしれません。

カリエロ11の読者と何か分かち合いたい思いはありますか？

宣教を活気づける最良の方法は、間違いなく、宣教師自らの動機、宣教師として出会う挑戦をどのように乗り越えたか、現代の若者にどのように福音を届けているかを宣教師自身に語ってもらうことです。ですから、すべての共同体、すべてのサレジオ会員が、少なくとも月に一回、私たちの宣教の生き方と召命について思い巡らす時間を取り、毎月11日に祈ってほしいと思います。サレジオ家族の宣教の炎を生き生きと保つため、これを翻訳し、デジタルあるいは印刷された形で広めている皆さんに感謝します！



ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

1958年、**チェコスロバキア**、ブルノ生まれ。兄弟は弟3人。共産主義政権下、若いサレジオ会員として宣教師となるため、1984年8月に国を脱出。ローマで学び、司祭叙階後、1986年に**韓国**に派遣され、2002年まで同国で働き、ソウル共同体の院長、管区長を歴任。

2002年、**東アジア・オセアニア地域**の地域顧問に選任。2014年から再び同職に就く。その間、2008年から2014年まで宣教顧問を務める。第28回総会後、総長より特別視察師として個別に ad nutum 任命された。



サレジオ会のデータの変化 - 「カリエロ11」が誕生した当時(2009年)と今日(2020年)の比較。

フ
ォ
ー
ラ
ム

- ・サレジオ会が動く国の数：2009年=130 ⇒ 2020年=134
- ・サレジオ会管区の数：2009年=92 ⇒ 2020年=90
- ・教会法上のサレジオ会支部の数：2009年=1854 ⇒ 2020年=1718
- ・サレジオ会員の人数：2009年=15,952人 ⇒ 2020年=14,299人
- ・その年に亡くなったサレジオ会員の人数：2009年=264人 ⇒ 2020年=401人
- ・聖人、福者、尊者、神の僕の数：
2009年=それぞれ8人/116人/10人/28人 ⇒ 2020年=聖人9人/福者118人/尊者18人/神の僕28人



6月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

結婚のすばらしさ

コンゴ民主共和国で、サレジオの環境に生まれ、キリスト教信仰に根ざした良い結婚の実りがありますように。

キリスト者共同体に支えられ結婚の準備をしている若い人々のため、祈りましょう。
寛大な心、忠実、忍耐をもって、愛において成長しますように。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アフリカ
のために

